リーディングDXスクール事業 【実践事例】

川越市立大東中学校（埼玉県）

【取組内容】 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実　面接練習

【目標】

・面接練習を通してより良い面接を行えるようになる。
・面接において大事なことを個人で考えてまとめる。

【個別最適な学びの充実について】

面接の様子を動画で撮影することで個別な課題と向き合うことができる。また、模範生徒の様子を見ることで、自分と比較して考えることができる。また、動画という媒体を使うことで後で見返す事ができたり、成長の段階を追っていったりすることができる。一方で、動画を撮影することで生徒の様子や個人情報が端末にデータとして残ることによる危険性がある。そのため、情報モラルを意識させ、他の生徒の端末ではなく本人の端末で動画を撮影することで、危険性を減らすように意識する。

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

川越市立大東中学校（埼玉県）

【取組内容】 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実　面接練習

	良いところ	改善点
出席番号		
1	聞き手にしっかりと伝わりやすいように話していた	「はい」とかではなく「えっと」などはっきりとした回答ではなかった
2	答える前にきちんと「はい」と言ってから質問に答えていた	質問に対しての考えている時間が少し長くなってしまっていた
3	目を見て話せているところ　姿勢がいいところ。丁寧な言葉遣いができているところ。	考えてい時間が長くて言葉遣いも荒い部分もあった。
4	質問に対して滞りなく答えていたところ	全部話し言葉で喋っていて止まっている時間が長い点
5	はっきりと話していてわかりやすかった	きちんと前を見て話していた。けど3人目は間を開けずにやればいい面接になると思う。
6		
7	はっきりとした声で話せていること	少し考える時間が多くなっている場面がある。
8	ハキハキ言えていた	姿勢が悪かった
9	言うべきことをはきはきと聞きやすい声で決めてから喋り始めているところ	喋り始める前に返事し、背筋を伸ばし、目を見て話す

1. 言葉遣いと表現

- 言葉遣いが正しく、質問に対して簡潔かつ適切に回答できているか。

2. 声の大きさと話し方

- 声がはっきりと大きく出ているか。話し方がスムーズで、聞き取りやすい速度であるか。

3. 間の取り方

- 話の間隔が適切で、空きすぎず詰まりすぎず、自然に話せているか。

4. 態度と姿勢

- 良い姿勢で、相手を尊重する態度で受け答えができているか。

5. 目線と表情

- 面接官の目をしっかり見て話し、表情が自然で硬すぎないか。

事前に撮った動画を見て、良い点や改善点を考えさせ、記入する。他者の視点や意見・考えを参照することができる。教師がchatGPTに要約させ評価の規準と自分たちの視点との比較をさせた。

自分の面接の様子を動画で見た後、一人ひとりに自分の課題をまとめさせる。課題によって、背景の色を変えることで、自分と共通の課題、異なる課題を持っている生徒を瞬時に理解でき、参照させることができる。

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

川越市立大東中学校（埼玉県）

【取組内容】 情報活用能力の育成　中学校２年生理科の授業実践

【活用したツール】Google検索、Googleスライド、Googleスプレッドシート、カメラ

【授業の流れ】

１時間目：実験室

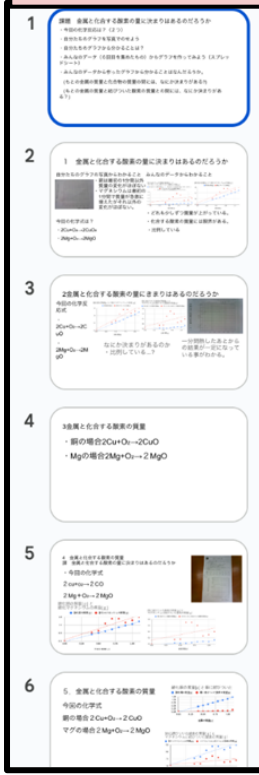
２時間目：教室

1．スライドを見ながら課題を捉え、実験を行う → 2．実験結果から、ポイントに対する考えを自分なりにスライドにまとめる → 3．スライドの発表会

１枚目のスライドに授業の課題と実験結果から考えるポイントを記載

実験が終了した班から、スライドにまとめはじめる

ポイントが明確になっているので、実験を見る視点が変わる



課題　金属と化合する酸素の量に決まりはあるのだろうか

・今回の化学反応は？（２つ）

・自分たちのグラフを写真でのせよう

・自分たちのグラフから分かることは？

・みんなのデータ（６回目を集めたもの）からグラフを作ってみよう（スプレッドシート）

・みんなのデータから作ったグラフから分かることはなんだろうか。

(もとの金属の質量と化合物の質量の間には、なにか決まりがある?)

(もとの金属の質量と結びついた酸素の質量との間には、なにか決まりがある？)

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

川越市立大東中学校（埼玉県）

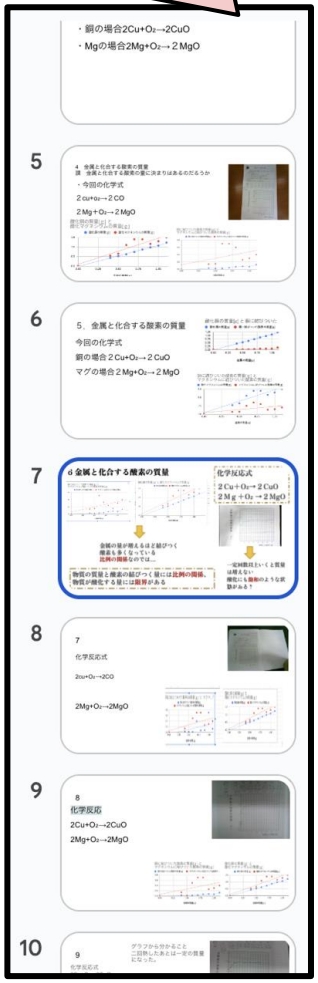
【取組内容】 情報活用能力の育成　中学校２年生理科の授業実践

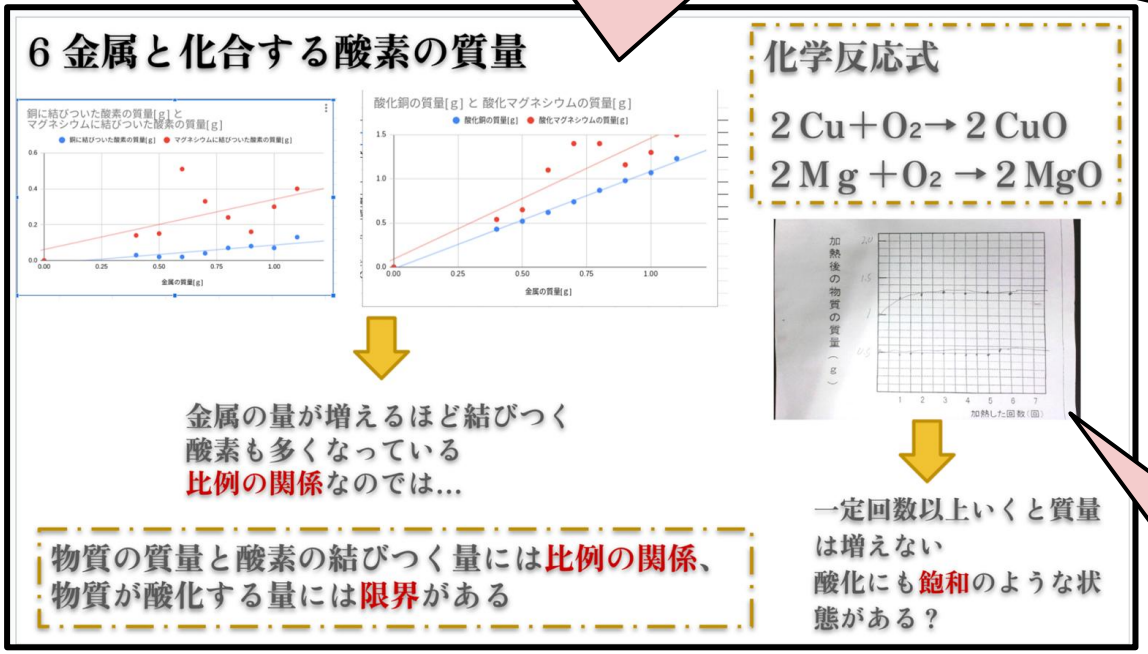
【活用したツール】Google検索、Googleスライド、Googleスプレッドシート、カメラ

２枚目以降にある、自分の番号の白紙スライドへまとめを記入

スプレッドシートに結果を打ち込み、グラフを作っている

班で話し合ったり、教員に聞いたり、検索したりしながらまとめる





グラフ用紙を配っているので、スプレッドシートでは難しいグラフは、手書きしたものを写真で共有

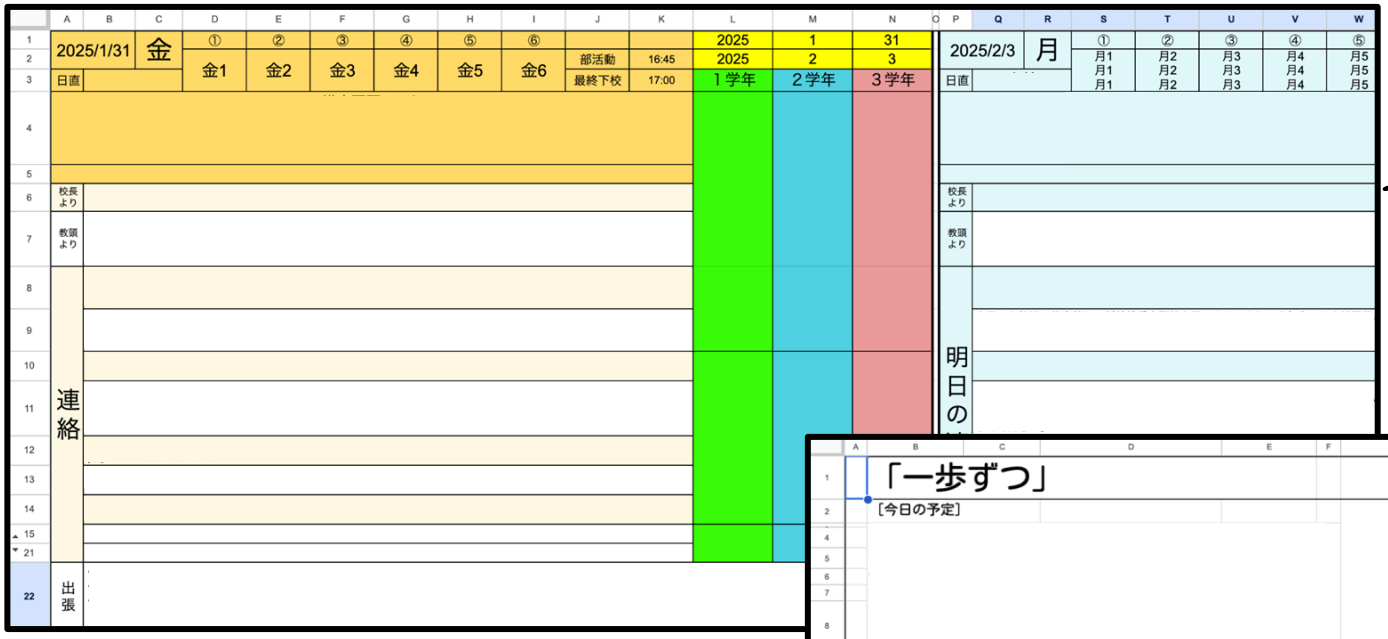
【情報活用能力について】
白紙共有されたスライドをまとめていきますが、個人で進めること、班で話し合うこと、教員に聞くこと、または、共有された他人のスライドを参考にすることのどれを選択しても良いことになっています。したがって、自分で最適な学びを選択することになります。中には、授業時間外で自分なりにまとめてくる生徒もいます。自分には無い他人の考えを視覚的に得たり、自分の考えを明確に示すことができるようになりました。

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

川越市立大東中学校（埼玉県）

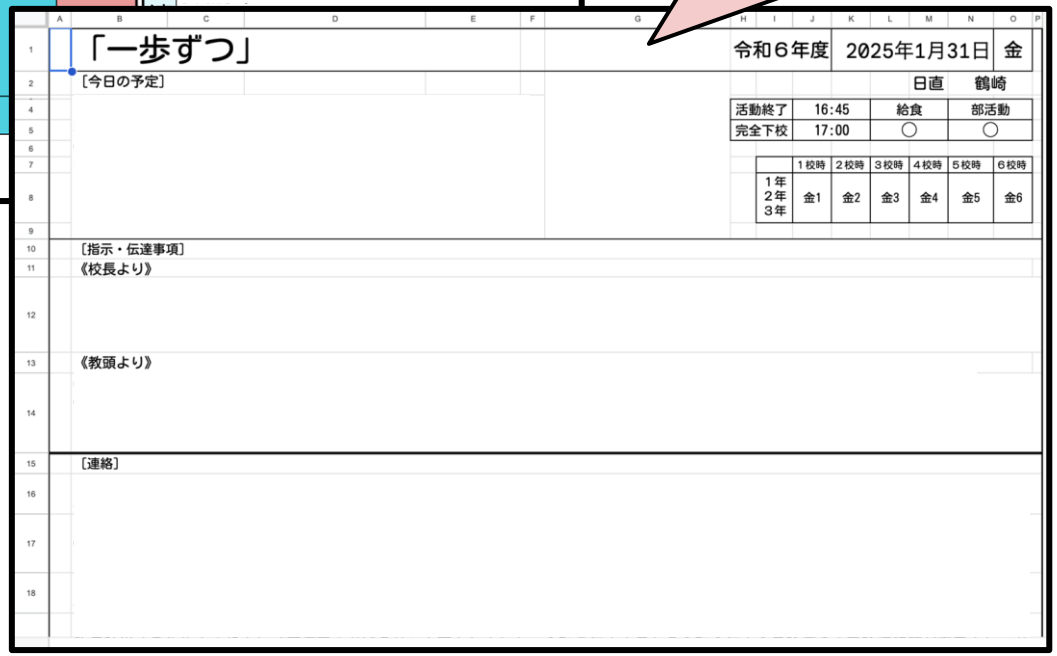
【取組内容】 日報の電子化

【活用したツール】Googleスプレッドシート



様々な情報が一目で分かるように集約。月予定とリンクしているので、毎日たくさんの入力をする必要はありません。

紙で必要な職員向けに、紙面用の書式もあります。電子版とリンクしているので、そのまま印刷だけで使えます。



【考察】
日報の電子化によって毎日の印刷業務がなくなりました。日報の他に月予定、年間予定、授業時数、学年の総合予定が同じスプレッドシートに集約され、相互にリンクしています。業務が大幅に短縮され、教務だけの仕事ではなく、職員全員で作り上げていく意識になりました。